



プラチナ 工業分野 に強み

プラチナの工業用金属としての有用性に
投資家が注目

コモディティーとしてのプラチナの認知度は高いとは言い難い。貴金属であるとの見方もあれば、工業用金属であるという見方もある一方で、プラチナの市場価値は、プラチナが両分野に及んでいることを正確に認識せずには理解できない。実際プラチナは貴金属でもあり工業用金属でもある。今年のプラチナ消費の65%以上は自動車、その他の工業用途からくと予測されている。

投資の観点からは、プラチナはゴールドと強い関連があるとともに、ポートフォリオの分散化、通貨や金利に対するヘッジ、そして長期保有価値をもたらすもの。また、ゴールドやその他の商品同様、プラチナは現物資産であり、最近の株式市場の乱高下時にあって非常に強い需要がある。

今年に入り、プラチナ価格は1100ドル/オンス以上で取引されており、新型コロナウイルス感染症の拡大が深刻化し始めた昨年3月に599ドル/オンスに下落した後の上昇率は80%以上である。にもかかわらずゴールドに比べプラチナは依然として割安で、さらにパラジウムや銅など他の工業用金属に比べても安くなっている。

プラチナはその特異な物理的・化学的性質から、様々な工業用途や製造過程に使われる。高い融点・密度・安定性、腐食に対する強い耐性、そして触媒性能を備えたプラチナは非常に貴重な物質である。

特にプラチナが最も有益とされるのは触媒としての用途で、微量のプラチナ分子でも化学反応を活性化させ、低温でも反応を起させて生産性が高まる。また人体内に入れても拒絶反応が



資料: Visual Capitalist

少ないことから、最新鋭のものを含め多くの医療機器や治療に使われている。

そしてさらに、急発展を遂げているゼロエミッション水素経済を推し進めている二つの最新技術、燃料電池と電解装置、にもプラチナは欠かせない材料となっている。同時にプラチナは依然として自動車産業にとっては内燃機関自動車の排ガスを減らすために欠かせない。

プラチナは現在、パラジウムが高価になっているために同量で同じ効果が得られるガソリン車の浄化触媒装置に使われるシェアを伸ばしている。

経済回復に押されて

ゴールドとの強い関連性をよく理解している投資家らはプラチナが産業発展に果たす役割の重要性を認識し始めており、コロナ禍から世界経済が回復する中で投資需要を後押ししている。

自動車業界と水素エネルギーセクターの潜在的需要とともに、他の貴金属、他の工業用金属と比較しても割安なプラチナに対して、多くの投資家は投資する好機と捉えている。



Contacts:

WPIC London

Brendan Clifford, Investor Development, bclifford@platinuminvestment.com

Trevor Raymond, Research, traymond@platinuminvestment.com

David Wilson, Research, dwilson@platinuminvestment.com

Vicki Barker, Investor Communications, vbarker@platinuminvestment.com

WPIC Japan Japan@platinuminvestment.com

Sophia Zeng, Japan Market Development Manager, szeng@platinuminvestment.com

DISCLAIMER: The World Platinum Investment Council is not authorized by any regulatory authority to give investment advice. Nothing within this document is intended or should be construed as investment advice or offering to sell or advising to buy any securities or financial instruments and appropriate professional advice should always be sought before making any investment. Images are for illustrative purposes only. More detailed information is available on the WPIC website:

<https://platinuminvestment.com/>